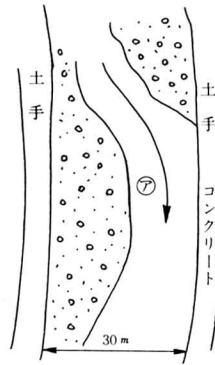


子を観察し、全体のおおよそのスケッチをする。

- ① 川原ができているのは、流れの大きく曲がっている内側か、外側か。
- ② 川原の大きさ、川岸の様子、水の流れている幅など、おおよそを書きとめておく。
- (3) 川原におりて流水のはたらきを調べる。



- ① 土手から川原におりられる場所を選んで、注意して流れを渡ろう。
- ② ⑦付近で30 mぐらいの長さを測り、川原の岸に近い方とコンクリートに近いところとで、流れの速さがどのように違うか。木片などを流して流速を測ってみる。
- ③ ⑦の付近で、川原の岸からコンクリートの土手側に向かうにつれ、川底の深さ、川底の様子がどのようにになっているか。水中のぞき箱などを利用し、調べてみる。
- ④ 板の上に砂や大きさの違うレキなどを並べ、水中に沈めて、流れの速さと砂やレキの運ばれ方について考えてみる。
- ⑤ 川の曲がっている内側と外側の岸で、つもっている砂やレキの大きさについて調べる。
- ⑥ 川の流れと砂やレキなどの運ばれ方、川岸のけずられ方などについて、調べたことをもとにしてまとめる。

- (4) 川原のレキを調べる。

川原で、レキのつもり方が平均している所を選んで、1 m四方の方形枠を置く。

